

# 令和5年度 宮崎県 英語教育改善プラン

## 目標

4技能5領域の言語活動を通して、コミュニケーションの目的や場面、状況等に応じて、自分の考えや気持ちを伝え合うことのできる基礎的な能力の育成を目指す。

数値目標：授業中、50%以上の時間の言語活動（95%）

### 1. 現状

改善が進んだ点

①パフォーマンステストの状況

+1.6ポイント

(R3:89.3%→R4:90.9%)

②「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の達成状況把握

+43.8ポイント

(R3:43.2%→R4:87.0%)

未だ改善が必要な点

①授業における、児童の英語による言語活動時間の割合

-2.1ポイント

(R3:92.8%→R4:90.7%)

### 2. 分析

①各種外国語教育研修において、パフォーマンステストの重要性について共通理解を図ったことがポイント増につながったと考えられる。

②小学校外国語専科資質向上研修等を実施し、大学教授等による「CAN-DOリスト」の活用に関する研修を実施したことで改善が進んだと思われる。

①コロナ禍により、授業においてコミュニケーション活動の時間を十分に確保できず、結果として、言語活動を実施することが難しかったことが理由に挙げられる。

### 3. 施策・事業

#### ①②小学校外国語教育推進協議会

県内の小学校外国語専科加配教員及び英語教育推進リーダーが校区ごとに協議を行い、お互いの連携の在り方や「CAN-DOリスト」の活用等について情報交換を行う。

#### ①小中高外国語教育研修

英語教育推進リーダーが中心となり、「CAN-DOリスト」の活用と学習到達目標を達成するための言語活動及び言語活動の成果を評価するパフォーマンステストの在り方に関する総合的な研修を実施する。

#### ①授業力アッププロジェクト協議会

言語活動を実施する際に活用できるワークシートの作成を行う。児童がコミュニケーションの目的・場面・状況を理解し、何ができるようになるのかを意識しながら言語活動に取り組むためのワークシートを作成する。

# 令和5年度 宮崎県 英語教育改善プラン

## 目標

4技能5領域の言語活動を通して、コミュニケーションの目的や場面、状況等に応じて、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指す。数値目標：授業中、50%以上の時間の言語活動(65%)、CEFR A1レベル相当以上の生徒数(48%)

## 1. 現状

### 改善が進んだ点

①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の達成状況把握

+37.2ポイント

(R3:51.6%→R4:88.8%)

②授業における、英語担当教師の英語使用状況

(50%以上)

+4.0ポイント

(R3:63.8%→R4:67.8%)

①授業における、生徒の英語による言語活動時間の割合

-1.4ポイント

(R3:62.3%→R4:60.9%)

②CEFR A1レベル相当以上を取得している生徒数

-2.4ポイント

(R3:47.4%→R4:45.0%)

### 未だ改善が必要な点

## 2. 分析

①各種外国語教育研修において「CAN-DOリスト」の活用に関する研修を実施したことが、ポイント増につながったと考えられる。

②中高合同研修において、実際に英語を用いて模擬授業を行ったり、事前に撮影した授業動画を示し、英語を用いながら授業を進める様子を解説したりしたことが改善の進んだ要因だと思われる。

①コロナ禍により、授業中に英語を用いてコミュニケーションを図る機会が減ったことが要因の一つと考えられる。

②①との関連及び生徒がコロナ感染を警戒し、資格試験の受験を控えた生徒がいたことが要因の一つと考えられる。

## 3. 施策・事業

### ①②①小中高外国語教育研修

英語教育推進リーダーが中心となり、「CAN-DOリスト」の活用と学習到達目標を達成するための言語活動及び言語活動の成果を評価するパフォーマンステストの在り方に関する総合的な研修を実施する。

### ①授業力アッププロジェクト協議会

言語活動を実施する際に活用できるワークシートの作成を行う。生徒がコミュニケーションの目的・場面・状況を理解し、何ができるように意識しながら言語活動に取り組むためのワークシートを作成する。

### ②イングリッシュキャンプ(1泊2日) 予定

他校の中学生及び高校生、ALTとのディスカッションや留学成果報告会等を通じて、異文化理解と英語による自己発信力を高めるワークショップを実施する。

# 令和5年度 宮崎県 英語教育改善プラン

## 目標

4技能5領域の言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指す。〔生徒〕授業中、50%以上の時間の言語活動（55%）〔教師〕発話の50%以上を英語で行う授業（55%）

## 1. 現状

### 改善が進んだ点

- ①授業における英語担当教師の英語使用状況（普通科50%以上）  
+4.0(R3:50→R4:54)
- ②CEFR A2レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒数：  
+11.4(R3:9.9→R4:21.3)
- ③「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の達成状況を把握：  
+12.3(R3:48.1→R4:60.4)

### 未だ改善が必要な点

- ①授業における英語担当教師の英語使用状況（専総50%以上）  
-1.4(R3:40.5→R4:39.1)
- ②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（普通科75%以上）  
-5.5(R3:10.2→R4:4.7)
- ③CEFR A2レベル相当以上を取得している生徒数(B1レベル相当以上を含む)  
-2.3(R3:28.8→R4:26.5)

## 2. 分析

- ①県立高校37校中18校を訪問し、ALTとのTTの授業を参観、英語科との協議を行った。その中で授業での英語使用について指導を行ったことがポイント増につながったと考える。
- ②授業における英語使用が増加したことで、生徒の英語力の上昇につながったと思われる。
- ③新課程となり、観点別評価が導入されたことで、状況把握をしっかり行ったと思われる。

- ①生徒が本文の内容理解等をするため、依然として日本語を使用していると考えられる。
- ②コロナ禍により発言の機会が減ったことが考えられる。50-75%については、昨年度比+4.5
- ③①と相関があると思われる。

## 3. 施策・事業

- ①②③ALT（外国語指導助手）授業力向上のための研修“Peer Observation”
  - ・新規ALTの配置校を指導主事、県PA、先輩ALTで訪問し、授業参観、英語科との協議を行う。事後研修として、新規ALTが先輩ALTの学校を訪問、授業参観、協議を行う。
- ③①②③教育課程研究協議会
  - 外部講師（大学教員）を招聘し、「情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力」を育成するための統合的な言語活動の実施を意識した、実践的な演習形式の講演を実施予定。
- ①③令和5年度「先導的なオンライン研修実証研究事業」（高等学校教師プログラム）
  - ・普通科を有する学校においては、1名以上の教員を受講対象とする。
- ②③小中高合同研修会（県内3か所）
  - ・指導教諭等を講師として、模擬授業を行うことで、英語による授業実践について学ぶ機会とする。
- ③イングリッシュキャンプ（1泊2日）※予定
  - ・留学生との交流を通じた異文化理解と英語による自己発信力を高めるためのワークショップ
  - ・グローバルな課題について学び、理解を深める講座（ディスカッション）
  - ・「トビタテ！留学JAPAN」制度説明や留学成果報告、海外インターンシップ、ボランティア等の相談